

第20回「日本人学生の『アジア体験』コンテスト」

実施報告書



＜後列左より＞菊川実行委員長、船曳凌史、太田清人、遠藤莉乃、福田奈都美、奥本充、北原審査委員長
＜前列左より＞中村颯希、鈴木杏奈、藤崎優香、大屋杏奈、金井菜都実

【開催日】2019年7月6日(土)

面接 12:30～ 表彰式 14:30～

【会場】東京ガーデンパレス 3階 鶴の間

【主催】一般財団法人 共立国際交流奨学財団

【後援】文部科学省

外務省

産経新聞社

【協賛】KYORITSU

<総評>

「日本人学生がアジアについて考え、実際にアジア各国を訪問し体験することでアジアに対する理解を深め、留学・就業等をするきっかけにしてもらいたい」という目的で2001年より開催している「日本人学生の『アジア体験』コンテスト」は、今年で第20回目を迎えました。

今年度は第20回の記念大会として入賞者数を5名から10名に増員し、①日本語教育体験 ②就業体験 のどちらかを行なうインターンシップ（疑似職業体験）の企画を募集しました。2019年度の対象国は昨年同様、①カンボジア ②マレーシア ③ミャンマー の3ヵ国です。

今年度はコンテスト開催時期を10月から7月に変更し、夏休みを利用した海外インターンシップ体験ができるようになったことで、昨年を大きく超える約20件の問合せがあり、海外インターンシップへの興味・関心の高さが伺えました。結果、応募者数はカンボジア8名、マレーシア1名、ミャンマー4名の計13名になりました。

審査委員2名による一次審査（書類選考）では10名が通過し、7月6日（土）東京ガーデンパレスにて、第20回「日本人学生の『アジア体験』コンテスト」を開催いたしました。

二次審査（面接）では第1グループをマレーシア、第2グループをカンボジア、第3グループをミャンマーとし、国ごとに面接を行いました。面接では、提出していただいた企画書を基に、応募動機やインターンシップ企画内容について熱く語っていただきました。

そして審査委員2名による二次審査の結果、10名全員が入賞し、実行委員長より賞状と、インターンシップ支援金として賞金20万円が授与されました。

入賞者10名には2020年1月末までに、それぞれが交渉した受け入れ先にてインターンシップを実施し、その報告書を提出してもらいます。

このアジア体験コンテストを通して、東南アジアにおける日本語教育・事業や企業の現状や課題を理解し、日本と東南アジア各国を繋ぐ架け橋として活躍することを期待しております。そして将来、日本と東南アジア各国の発展に貢献する人材となることを願っております。

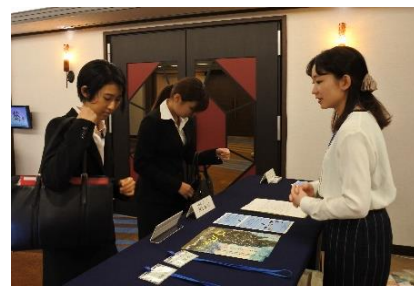
<実施報告>



会場外観



会場



受付の様子

◇第1グループ（マレーシア） 12:30~1名



◇第2グループ(カンボジア) 12:45~5名



◇第3グループ(ミャンマー) 13:30~4名



◇表彰式 14:30~

＜式次第＞

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長 挨拶
- 一、審査委員長 講評
- 一、賞状授与
- 一、閉会の辞

＜実行委員長 挨拶＞



菊川実行委員長

＜審査委員長 講評＞



北原審査委員長

＜賞状授与＞



入賞者10名に菊川実行委員長より
賞状と賞金が授与されました。

＜記念品授与＞













北原審査委員長より、当財団のボールペンと
オリジナルエコバックが授与されました。

入賞賞品

『夢・アジア体験賞』

入賞者一覧



体験国	氏名	学校名	インターンシップ先	テーマ
	鈴木 杏奈	国学院大学	NPO 光語学スクール (日本語教育体験)	「オノマトペ」をダンスで味わおう！
	福田 奈都美	大妻女子大学	光・共立語学スクール (日本語教育体験)	日本文化体験を通じた日本語教育
	金井 菜都実	大妻女子大学	光・共立語学スクール (日本語教育体験)	書道を通して日本文化を体験しよう
	中村 颯希	国学院大学	KHJ グループ (就業体験)	子どもが気兼ねなく学校へ行く為に 大人への農業授業
	奥本 充	青山学院大学	S.E.A.T.S Inc. (就業体験)	カンボジアに日本の美味しい魚を流通させる！
	太田 清人	創価大学	UNLOCK DESIGN (就業体験)	発展真っ只中の多様な国マレーシアで世界に貢献する人材に
	船曳 凌史	岡山理科大学	MOMIJI 日本語学校 (日本語教育体験)	ミャンマー弓道教室：日本の伝統武術であり、大学でも取り組んでいる弓道を通して日本の文化を知ってもらい、日本に興味を持ってもらう
	大屋 杏奈	神田外語大学	MOMIJI 日本語学校 (日本語教育体験)	ミャンマーと日本の文化を比較し、日本の魅力を伝える
	藤崎 優香	津田塾大学	Opengate (就業体験)	途上国でのビジネスの可能性 ～自分の肌で感じる途上国の熱意を世界に伝える～
	遠藤 莉乃	神田外語大学	HIS スタディツアー営業所 (就業体験)	ミャンマーの文化を体験し観光産業の課題を解決する

< 講評 >

審査委員長 北原 賢三

一般財団法人 共立国際交流奨学財団 評議員・奨学金選考委員

教育学博士 神田外語大学客員教授、学校法人共立育英会 理事、共立日本語学院 講師



今回は応募者多数ということで、一次選考を通過した応募者を面接した。さすがに、一次選考を通過した応募者だけに、日本語教育体験志望にしても、就業体験志望にしても、アジア現地で体験しようとする熱意が極めて高いことを感じた。

就業体験志望者は、現地社会での交流を希望しているためか、ユニークな発想が目立った。例えば、マレーシアで現地でのイベントを、マーケティングを通して企画したいという希望があった。何かすでに形のある仕事をするのではなく、自分でイベントを企画し、実行して形にしていくものである。同じく、ミャンマーで現地の実情と向き合いながら、会社と現地の人々の双方が利益になるような持続可能性のある企画を立ち上げたいというものもあった。さらに、カンボジアでクメール人に日本鮮魚を食べるようにアピールしたいというものもあった。それから、貧困のために学校に来れない子供のために、親に農業の知識を教育し、少しでも報酬を得られるようにして子供を学校に行かせるような余裕を持たせたいという大きな計画を主張しているものもあった。

一方、日本語教育体験志望者も、各自の持ち味を活かして日本語を教えたいという内容であった。たとえば、弓道を紹介し、弓道を通して日本の文化を教えるというものである。あるいは、外国人の日本語学習者にとって難しい、日本語の「オノマトペ」を、ダンスを通して身体も含めて理解させるというものもあった。さらには、書道や折り紙、あるいはカルタ遊びを教えて、日本文化を理解させたいというものもあった。いずれにしても、子供にとっては初めてのいわば日本文化体験になるので、これを切っ掛けに、日本という国そのものに興味を持ってくれるかもしれない。

今回、二次面接を通過した応募者には、初めてのアジア体験者もいるので、健康面にくれぐれも留意して初期の目的を達成することをお祈りしている。